

拠点名：「**知の拠点**」(シンクロトン光利用施設を備えた産・学・行政の共同研究開発拠点)

全体構想：本拠点は、「次世代モノづくり技術の創造・発信の拠点」として、モノづくりのイノベーションの基盤となるナノテクノロジーを核に、IT技術、バイオ技術も融合した研究プロジェクトを展開し、環境・エネルギー分野や健康長寿分野などに貢献する革新的なシステム、付加価値の高い製品・素材につながる技術の創造を目指す。

期待される地域活性化

モノづくり産業の一層の強化・展開により地域経済の活力を維持・発展させるため、ナノテクに立脚した世界的モノづくり拠点を形成し、産・学・行政による共同研究・研究開発が連続的・継続的に行われる仕組みを構築することで、技術革新が次々に生まれ、既存産業の高度化と新産業の創出・育成に大きな効果が期待される。

主な共同研究開発課題

本拠点では、大学等の研究シーズを企業の製品化につなげる橋渡しとなるよう、中期(5年程度)毎に戦略的な重点研究分野を定め、テーマと期間を限定して取り組むプロジェクトタイプの研究を継続して実施する。

現在実施中の重点研究プロジェクトは以下のとおり。

- 低環境負荷型次世代ナノ・マイクロ加工技術の開発プロジェクト
- 加工コスト、加工スピード、製品寿命を飛躍的に改善する高精度な加工技術の確立
- 食の安心・安全技術開発プロジェクト
- 農工連携により、食を脅かす有害化学物質、固形異物、微生物を同時検出する技術の確立
- 超早期診断技術開発プロジェクト
- 医工連携により、がんや生活習慣病を極めて早期の段階で診断する技術の確立

提案機関：官：愛知県、公益財団法人科学技術交流財団(産学官の取りまとめ団体)
 学：名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、豊田工業大学
 産：社団法人中部経済連合会、名古屋商工会議所

参画機関：重点研究プロジェクト参加機関
 ・大学(16) 名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、豊田工業大学、愛知医科大学、愛知学院大学、愛知県立大学、愛知工業大学、椋山女学園大学、大同大学、中京大学、中部大学、名古屋市立大学、名城大学、富山大学、香川大学

・公的研究機関(9) (独)産業技術総合研究所、国立長寿医療センター、理化学研究所、(財)ファインセラミックスセンター、(公財)科学技術交流財団、愛知県衛生研究所、愛知県がんセンター研究所、愛知県産業技術研究所、愛知県農業総合試験場

・企業(55社：中小企業26社、大企業29社)
 地域計測分析機器情報提供システム参加機関(7) 名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、(独)産事業運営委員会

運営体制：委員長 宮田 隆司(名古屋大学理事・副総長)
 委員 ・産業界 (社)中部経済連合会、名古屋商工会議所、旭化成(株)、イビデン(株)、中部電力(株)、トヨタ自動車(株)、(株)豊田中央研究所
 ・大学、研究機関 豊田工業大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、名古屋大学シンクロトン光研究センター、自然科学研究機構分子科学研究所
 ・行政、関係団体 愛知県、中部経済産業局、(独)産業技術総合研究所、(財)ファインセラミックスセンター、(公財)科学技術交流財団(事務局)

拠点事務局 愛知県産業労働部新産業課科学技術推進室 拠点設置場所
 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 愛知県瀬戸市南山口町、上之山町、豊田市八草町
 Tel. 052-954-6352 Tel. 未定

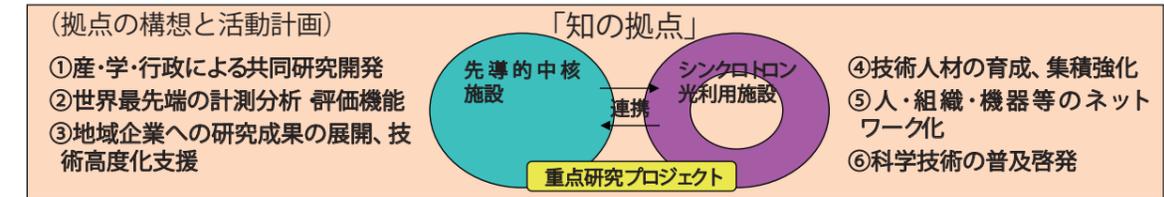
知の拠点
～シンクロトン光利用施設を備えた産・学・行政の共同研究開発拠点～

(コンセプト)
ナノテクを核とした次世代モノづくり技術の創造 発信拠点
 ◆ナノテクによる素材開発 加工がこれからのモノづくり
 ◆産学行政の共同研究の場と機会を提供



(所在地)
 愛知県瀬戸市、豊田市
 ○名古屋市の都心部から東へ約20 km
 ○産学の厚い集積を有するエリア

(拠点の内訳・特色)
 ○先導的中核施設 愛知県が整備・運営) 産学行政連携による共同研究開発の場、計測分析評価機能も有する
 ○シンクロトン光利用施設 産学行政の連携で整備・運営) ナノテク研究に不可欠な最先端の計測分析装置、産業利用を重視した地域共同利用施設
 ○重点研究プロジェクト 愛知県が研究資金を投入) 先導的中核施設において産学行政が共同して実施するプロジェクト



拠点イメージ

機能 産学行政共同研究開発機能、企業技術高度化、高度技術者養成、科学技術の普及啓発
 概要 愛知県が整備する共同研究開発施設に隣接して、最先端の計測分析の共同利用施設を設置し、連携して産学行政の共同研究開発拠点として機能

